特別
ル4
5597
4

特
164
597
4

阿陪氏

七冊之内

アベ寺

58 2043

都名所図会巻之四目録

嵐渓
吉田神社 付知恩寺百万遍
月読坂観音
摩尾谷 付西方坂
白川 付
氷室山
長谷 付朝倉谷 并
比叡山 付元三大師
星谷 付熊野三社 法雲石
明星水 并龍神池 神楽岡
青蓮院 付神宮院 并恵好法師
吉田寺 善正寺
岩倉山 付狗脚
椿堤社 慈照寺 付椿井
黒金山 付物部坂
八幡岡 法学寺
横川 付花山明神 小比叡
岳山 付元生寺

日吉山王

出雲國京古屋里之記

長浜

之除乃ゆ。櫛川の東のほとり。そのほとりより南のほとり。東
三条ゝ林ゝ乃ゆ。ほとりにおのゝ村ゝ。ほとりにおのゝ村ゝ。
いわゝ。稲とゝ。ゝ。ほとりにおのゝ村ゝ。ほとりにおのゝ村ゝ。
しもとゝ。ゝ。長浜の西三町ばかり。屋敷
沈村あり。村乃おゝ。屋敷沈ゝ。家あり。村乃東のほとり
ゝ。ゝ。ゝ。

黒谷

長谷村のうち。西しさめ門より三入三石巻山
金蔵寺為寺ともに法名人の墓基として敷山の上
石より高くうつくしれ。石と彩色石と法名石
ケ丸字ちのうち一巻字堂ハ南しきもの地れ新堂ハ東南の
方より法名石ともに。黒谷実義ハ法名石ともに
てうけうち指ありてそとハ石指りて下ハ黒池より
法名指より一町ばかりとの山より法名人の墓あり
三ヶ石より黒谷数墓とのの墓ありてふの指とうて
黒谷い数墓とうて数人せしいつ。ふの紀りい
阪苔ち来実清い法宗ハ伯父ありこうとて法見海之
て仲之ハ戻て道門ーーーもつ。ちなも軽弱
り先ちれ軍法乃寺ちれ行りちも地元二年九月

十二月四会佛をとりこげこう。寿八十三歳あり。墓く
所ゆゑとりてより具世と名くしびのびを墓伝せ
しとや。宗門石八生人の墓こう一所いりみよ
法門上人きこハけ石てう掘とうけこ。あの方とふ
やつと法ふうう向
羽久嘉水ひく白とつのしこれ冬ひ五冬さん
とこうこうひしこうこ法を石とハ名付ら上こう。はよわこう
の中小作りこめて法人の刺髮と投つ手まりまりわ
禁宝石乃やり万日会佛の宮あり。そ宮義若ら兼
陣乃こと捕ふつて事国人ハ行こ入乃こ一こう
宗門とやこうこ法こて万日会佛とこの屋
和法こめて法新し法新こうこうこう
和ふ乃こうこの石ふ名所宮ふ名ふ名ふ名ふ名ふ名ふ名

吉田

北の東山にて奥わく名地也年号寛弘元年
拾き
名ふ[illegible]そう吉田の里の社をれうて[illegible]
こよりか吉田の里まことに村氣なりとぞ
ちと行てり
本社八幡ふきみく[illegible]向八角[illegible]
う。日本紀上日宮と書ひ[illegible]八流流天宮の
宮名ありそ[illegible]額の下[illegible]
のくまりは[illegible]
日本國中三[illegible]天神地祇八百萬神と書
新わり。[illegible]
る書る[illegible]後陽成院の宸筆ありとぞ
本社の[illegible]八神[illegible]
へ神座と書る新とりけり。[illegible]
らば吉[illegible]
伊勢あ[illegible]奥[illegible]
源と書る新わり。吉田流宗源[illegible]
[illegible]
本社の左右[illegible]
國一社の[illegible]
社でこれけらか
此文社の[illegible]
[illegible]
[illegible]
社。長[illegible]
神社[illegible]

ら給てまつれば事うとで神堂乃宮白そと長ろ古法
成るとゆくらも吉田社と申ぐ先んとつり奥福ちとぞ
日乃社とんあぞらへら丸しーとうや
本社のおなら稲乃系れとうり井のとあり明星
水とろづく。ト祢一位宮俱とうわりて旅新とうり
祢事ていうとつりしふ明星ぜ山ろのうへうてつ高
初しと地ず吉田山系乃ふりとうり。日後坂とてあり。ぞも
神ろ母こなひろうみぞり日稲ろうわうとぞつた
まふとうや
本社乃面のうう池わり。弱沢池とあづく。ふ良乃稲
沢乃池とうとうしふをうろ弱れとうりとうや
早稲のうれい吉田乃村民ぜ池乃先ぐつにわつまり
曜ていて面稲とと地本社乃水一町ぐりよ玄日乃

神社面むきうつ三座たるべし。玉葉集より抜二位
為家の卿
　　白雪の降しく山の岩ねにも
　　とよめる八山岳中納言持
　　名ゆえ稲荷社と高乃神のまふく
　　　

源空上人の弟子。勢観房の姓は平氏小松内府
重盛公の孫。伊予守師盛の長男なり。源氏
を名乗りて行。平氏の一門の極と栄花を誇る所
なり。十三歳の時源空上人
に師事して剃髪し、法然和尚の行ぶを慕ひ
門に入。法然上人は
はるかに海を渡り、唐土にまで名を聞
西国に流れ花を結ぶ。しかるに一朝にして
平家滅亡の後、上人は
法然上人の教を受け、専修念仏の道を
行ひ給ふ。法然上人は
一心念仏を説き給ふ。
こゝに今は智恵ある人なり。中古法然聖人の法恵

びるを信ぜずして十念をとなへけく疫病といふ
けがらわしきなり。数珠をたゞ繰人
法をこゝろ会仏をこゝろ
これなり。百万遍といへるふるい付
乃前をもわるあるべし
山号に放毒教と号の人のやまとの法を知る

智福院 付神道

吉田山乃うへの方也。伯養大師神道伯授乃地
て。まことのかみをとなへ。
月をもとめ海をとゝのへ。
雲をはらひて信ぜ
ゆるとなり。
風さらく月かゞやくみて世乃ためを
ゆるすこと。
月かゞやくみてどの門をもよるべたり

[illegible]琴の琴の弟子[illegible]その中に[illegible]
[illegible]

[illegible]やう田の面[illegible]

月渚坂報恩寺

月渚坂の[illegible]中納言法橋[illegible]
法師の[illegible]
[illegible]板[illegible]
屋[illegible]古堂也[illegible]
[illegible]

小原の[illegible]

報恩寺[illegible]

吉田寺

吉田村の[illegible]

吉俗大原の建立[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

吉正寺

吉田[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

黒谷乃江ぬきと嶽のふもとにあり。吉田ふ谷よりゆ
ぎバ五よそり海ぐわう坂わう長刀坂とゆづく。鹿谷ハ
しゅ一俊寛僧都ゆ山荘ゆとして。平判官康頼丹波
おわ俊成ゆ子ゆ藤原成経ゆ平家ゆ追討乃仲間ゆ
とゆやゆと民家ゆ多くゆ村ゆ也

小原ゆ里ゆ坂ゆとゆうて。ゆ五よわゆ石ゆ寂光寺

ゆ寂光山　付　鹿ゆ谷

鹿ゆ谷乃ゆとゆ。平朝臣ゆ山乃一ゆ。ゆ嶽ゆい寂光寺よ
ゆ寺ゆ中央ゆにゆ乃ゆを山ゆとゆ嶽ゆ宮ゆ。その
外ゆ江ゆ濱ゆ湖ゆ五ゆ山ゆ五ゆ嶽ゆ多ゆ。
ゆぶゆ。ゆ五ゆ八ゆ。ゆ。ゆ。

つくられたるにやとぞらさわ
年毎の七月十六日の彼岸に生霊の来りて
方の山より松明をとりて彼法大の三字に
ちとをとをとを半ばそのうつりこうれあり
うい大の字をとりたる文字の
門主の御筆とゆゑ文字筆勢ゆしく樣と
ちくを樣り松明とひしと法付てをとをたりあり
人川原にてうつさぐり付へふ
ゆをと奥山の獨鹿ら岩ら八十條町ら
してあるその澤の大さ七八尺ばかりむ
面ふりて松ゆるぐ
をうとうとうし

ゆよりて白さ月毛ゆ弱ら滝流ら水よあり
ゆをとを

白川　付　橋垣森

ゆ和八系拙今和川より十八町ありといふ下野の国
この白和の中を毎りて山中越りゆるゆ坂ちう
あるといふ白川の宮ハ社ちく。あ右ゆ
らべつゆ。ゆ澄奥ゆ白川ゆ
ぐ千ゆでゆをてぐぐまぐひてうて世よひろめと
いふゆ。ゆ白川八月り彼ふ伝めうとゆ
り見ゆとうれゆ。ゆ
まゆ和なを八ゆをとうすうぐやくれもゆぐ
ら外ゆ。月毎りる車ゆ
服ゆ。ゆ石ゆものを世
海ゆ半年月繰く。
う。ゆ白川も海ゆ

物あるようにてき舟屋
いくとを白川石の石門でひくい花ゝ固ゝなるゝん
白川のわゝ橋姫の社ゝてあゝ。ぞまゝ八橋姫ゝゝ強
ゝ行くゝゝ白川の東ゝ浮ゝ村ゝて民家ゝ
黄ゝゝ

でゝ舟

来てゝれひゝゝ社家の村ゝ祭ゝゝ者ゝ多ゝてゝ海

慈照寺

浮ゝゝ村ゝゝ社ゝ東ゝゝ。そゝゝゝゝ京都の三方郡改
称軍ゝ東山殿ゝ号ゝ。延徳二年正月七日ゝ薨
ゝ。法名ゝ慈照院道慶ゝ号ゝ。道号ゝ善山大禅
定門ゝゝたてゝゝ。山和ゝゝゝゝゝゝゝ。西ゝ高倉
所ゝゝゝゝ。ゝゝ史遺の面ゝ岡ゝゝゝ一部ゝゝ
称名ゝゝ。ゝ所ゝ岡ゝゝゝゝ。ゝ山の金閣寺

ゝゝ。ゝゝゝ義政ゝゝ湯ゝゝ建仁寺ゝ
岡ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松ヶ崎　付桜井宮

賀茂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松ヶ浦の門ちかき所と桜井の里とゝづく雪の法師
ク千ヶ
祢芹つむ沢の水はひゝ絶てまめさゝさゝ桜井の里
とよめり

元ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

つ。天朝より之間、禮よ清人雪年といへる人ハ氷室ちる玄
米と申す。魏の曹操ハ冰井臺とたくつて黑と玄
のぐことを求めり米ハ魏志にもとり。雪の世
に上林令といへる官にして氷と蓋をつかさどり
ら免れ。抱朴子ハ氷室を拵し陽人乃響とあり
をとこ行ぞといへる氷室乃名まあてよ久し。孝朝よハ
都四大中元年子くり免て氷をとらを行よりまを
うて十二月より氷を行さめ。始皇より氷室をとれ藏年
元日乃夢食り氷柱といふ事わり。氷ハ厚さ五寸
と書ゆと。氷乃厚さ五寸ハ生氏乃ちるしゆり。為ちまば
大法四とをつ巳。巳年乃冷れりとわり。巳書式より冰
泥乃まつりとふ米とのをとり。ろを氷ら年ち法のり
ちぞ。でき歌原

我居ハ名をとり米ちさ氷室山及のあり。さハ鹿ら室りも
岩倉山付 柳坂
柳ちを清ちり小乃ちを柳坂とをて岩倉山ちゆ。ぱ小
い賀ち歳ら東小のちをうわちて氷ちり八室づち
わり。拾遺大中に後宮朝臣
ちをかちを岩倉山ちを方世をとをたをくれを侍んとを子
とようちくかくをやけ
ちをちり岩倉山あやちて紅倉をとをかをとられ
長谷 付 朝綱谷 八橋谷
岩倉山ちをわちを。朝綱谷をて四條大納ちを住。
和漢朝綱集をちをわ。ちをわ。ちをわ。ちをわ。
長谷をとをちをとをちを歳ら東小乃ちを女倉町をとを
ちり。南 椿岳 大上乃をとを乃ちを椿岳乃西稲

まことにくすしく奥ゆかしくおもしろ
足柄の山のやちかの長谷寺にて長谷山より風ふくあり
とよりて。長谷のうへの山を八幡の宮とくんじ[神号]奉るの
宇ゝ
浅くぬしかの長谷寺をみわやまくよ河内をしん
ちいとは名よりすぐれたりとぞいはるゝ
ともよりて宇ゝはりされたるをみ井のことをもめるふ
かく。山姫のうへにはりてのかみとあやしむはりよ河内をん
こうの奥ゆかしとぞ
まつらのやちかの長谷の寺と風のふきひろうんふ
法華寺
長谷ゝつきて花ぞ紅ゆかりの京ゆかりあるまつ。そのゝ
智光[僧名]僧正ゝて三井ゝよりて勅願[天皇の命令]の行

法ゝ[仏教]ゝ聖[僧侶]ゝ山ゝゝ法ゝ[仏教]ゝ
明神ゝゝゝゝゝゝ三井ゝゝゝ奥院ゝゝゝ
もゝゝの山を汲よ来ゝゝ。かの僧正ゝゝゝ
ゝ法華ゝゝそれ住ゝゝゝゝゝゝ
ゝ。
ゝゝの寺にて衣きてゝぐ智光ゝの拝殿
比叡山
ゝゝ八日比叡山ゝ書ゝ。山ゝゝゝ朝日ゝゝ
ゝゝ。ゝ。植武ゝ。ゝの御ゝゝ伝教大師
ゝ迎ゝゝゝ寂ゝゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ。

而こゝにつて信義大師い中道流てれたゝ〜ろうとく
や。又この山中う我立松とゝて〜ふわり。信義大師との
山家雲のゝれ
ひ藤家殿三筋三蓋探の仏道我立松よ寒ゝ結へ
とうみうひゝ而也
信義大師い。河弱流祝の人。又八百枝と号そ。姓を
三津氏そ乃先祖ハ桓漢乃帝の孫ゝり。孔とのゝ
ゝ也て日本う渡ゝ。嘉祥とうれとゝ。源
賀の祝とたまゝて信しゝ。百枝ハそ乃義高と
して。家家さゝ人ゝ。因乃経典とうをとられしゝ
ゝなゝさ事とゝなげさ。元えの山乃ふもとゝなる往ゝい
ゝて。神護寺をえ年よゝとまゝうゝさゝ山ゝてゝ
拾遺ゝ。十二巻ゝ〜て写ゝ。法花流と号そ。

磨廿一年七月廿六日寂みして入唐し天台山に登り
ぬ乃道窓和尚に逢て天台乃法門を受て帰朝し
寺の別院に安置し奥乃儀式を伝授し入唐
四年の秋比叡山に帰して天台宗をひろめ九寂
れとなる。そこで先て睿山に登りのりて法花経をとむ廿二
寂うして山のうへで歳よ一字を唱る。人の極中
雲あり。一乗四教院と号す。時に延暦七年也伝ナ
三年六月廿日近江に生あり。年十六寂うり。国家八
年七月に伝教大師と称ず
又叡山に元三大師の法像あり。これ慈恵僧正の
ありしを新たに造りおそ作しぞ
けれバ度神と称べ。とうひ山のうへ

まんとおもうてみちをきき国わうて法人乃居所と
う教首乃ぬりの庵乃一二う合をそこをとひらよ
ぬ乃ふうの名西堂と云ぐ。とう法ぐ。とう也ハ山ハ
寺乃入口の法一ヒうしてゆうひハ乃冨士と号す。
又ハ稲乃ちねとそづを。ゆ乃ねとしてとやゆ乃
う貴そぐ
山ちとうつ数ち桜花風ハうゆ乃ふまうとへらも
ちうみも山のまもうそ
中堂の業師よハ
横川付和山明神　ふは敵
睿山乃三塔ハ西塔東塔横川とい。東塔ハ東乃ち
坂本へ付く。ゆ也七社ハ東坂本うわと
西塔ハ。西坂本うり付て。ゆ也毎坂

乃事なり。小法師といふ法と横川の中興慈恵
僧正の母也。慈恵乃誕生ありし清水と同名の
て別なり
若山明神ハ慈覚大師入唐乃とき彼ら此
山乃神あらはして契約の事行なひ。日本ニ法
ふ乃ときハ。てう結ひ西塔とまもり給
まふとなり
横川ハ山乃ひがしあり楞厳院ハ九條殿乃建立
なり。元慶寺ハ九条右大臣右京師
惰云弟八乃子なり。也とのこれてうりもつと也
乃号を寛平法皇御手ものとなる
給ひしを此寺ぶつわるさ的ら横川乃北にをみよりなり
ゆ。

北ハ比叡の峯を高くなる横川のあいだをうるはしく
とつゝうとはしりしとなり。ほふ恵心乃住給ひしとなり
こゝにて。往生要集とかゝれたりよ
此住給ふ所をでゝ社原乃ほかにもうんけ
給ひ此寺を高倉天皇横川乃根のすぎたく無や
長等の山 付 仇生堂
むえ乃山より南のくさ乃ふかきあり山ひとつゝ
その南ハくさ仇生乃堂あり
此仇生乃堂ハ安乃宮ハ安乃ひとつゝ
とよ乃ゝ乃宮ハ安乃ひとつゝ
まとも也山ハ坂ゝとなりしよハ廉乃岩也
美乃日ハ小ゝ乃ハ山ハ
月吉

京江戸の日吉山王權現八王子尾門神と同神なり。
わけ給ふ御神天皇の御位元年より大和國磯城郡
新宮神わけ給ひ天皇の御位元年より摂津國住吉
郡三神わけ給ひ天皇の御位元年より若狭國遠敷
郡大明神わけ給ひ仏菩薩大師
ちかひ給ひ天皇の御位元年より日吉の神
此八王子の神なり。はじめて紙をもつて
也四王子の三ちう横の三ちう四王
の一ちうをくゝめ給ひ。山王と中
ちう。三輪一神一社一会三ちうの天台のほつゝ
の祀お西ぢいつゝ。すべて上中下三七廿一社宮
の中の日神半ちうの西いとゝぢ

寄一方物

かしやうこそもらるる世のあるじ其後は桃尻まろぶなりけり

山里はまつの花をみるひとのさりてぐしやを知るべかりける

寄弟故京五位左之宣流